



イチゴ

やさいの里営農センター
営農指導員 宇井 文英

夏ネギ



成東経済センター
営農指導員 内山 晃宏

夏ネギはここ数年、単価が安定しており、特に5月～6月出荷は市場からの要望もあることから、比較的収益性の高い品目です。

トンネル栽培での温度管理

トンネル内の最高気温が35℃を超えないように換気を行います。トンネル栽培では被覆後、トンネルの頂上に5～6cmおきに6cmの穴を開けます。それから、徐々に換気穴を増やしていきます。

2条トンネルでは、2月下旬～3月上旬頃に側面の支柱の両肩にも換気穴を空けます。3月中旬ごろ(被覆除去の約1週間前)に、側面の換気穴をつなげて、ネギをしっかりと外気温にならします(写真①)。また、小型トンネルでも、葉が天井に当たり始める3月中旬ごろに頭上の解放換気を行います(写真②)。

トンネル除去前の換気が不足していると、軟弱で倒伏しやすい、徒長気味で根張りが悪い、病害虫の発生が多いなど、デメリットが多くなります。必ず被覆除去前に十分な換気を行います。

トンネル被覆除去

2条トンネルは3月下旬、1条トン

天敵利用によるハダニ類の防除

イチゴ栽培では天敵農薬や微生物などの生物農薬の使用が広がっています。農薬散布の労力軽減や果実の汚れが少ないなどのメリットがある技術ですが、ハダニ類防除の天敵農薬であるチリカブリダニ(スパイデックス、写真③)、ミヤコカブリダニ(スパイカル、写真④)を定着させることが重要となります。天敵農薬は、ハダニが多発生しているとき十分な効果を得られないので、放飼前には、ハダニの発生を確認しましょう。

ハダニは発生が確認できない場合でも、株に潜んでいる場合があります。天敵を追加で放飼する前には、天敵に影響のない殺ダニ剤を必ず散布しましょう(表①参照)。スポット的に発生している場合は、その部分だけ散布量を増やすか、気門封鎖殺虫剤(ムシラップなど)を混合して散布するなどの対応をしてみてください。

アザミウマの防除

栽培期間の終盤を迎えるにあたり、アザミウマの防除も必要になります(表②参照)。アザミウマの被害が確認できない場合には、天敵に影響が少ない殺虫剤(マッチ乳剤、カウンター乳剤

表① 天敵に影響の少ない殺ダニ剤

散布時期のめやす	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
天敵放飼2～3週間前	ダブルフェースフロアブル	2000倍	前日まで	1回
天敵放飼1～2週間前	コロマイト水和剤	2000倍	前日まで	2回以内
天敵放飼2～3日前	ニッソラン水和剤	2000～3000倍	前日まで	2回以内

※天敵農薬(スパイデックス)10アール当たり2本+スポットで多発している場合は、1本追加する。

表② イチゴのアザミウマに登録のある薬剤

散布時期	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
3月	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	前日まで	2回以内
	モスピラン顆粒水溶液	2000倍	前日まで	2回以内
4月	ディアナSC	2500～5000倍	前日まで	2回以内
5月	アーデント水和剤	1000倍	前日まで	4回以内
	モベントフロアブル	2000倍	前日まで	3回以内

などを予防的に散布しましょう。アザミウマの被害が確認できる場合には、天敵に影響がある殺虫剤(スピノエースなど)を散布し、アザミウマを徹底的に防除しましょう。

天敵に長く活躍してもらうために、3月以降は、定期的に防除を行うようにします。ポタニガードESを混用して

散布をすると効果が期待できます。害虫防除を発生初期から行い、天敵に影響の少ない殺虫剤から使用しましょう。



写真④ スパイカル(ミヤコカブリダニ剤)



写真③ スパイデックス(チリカブリダニ剤)

※写真提供: アリスタライフサイエンス(株)

写真① 大型トンネル換気方法



2月下旬～3月上旬



3月中旬

ネルは4月上旬に被覆の除去を行います。被覆内で軟弱に育ったネギは倒伏しやすいので、被覆除去までに十分に換気をしておきましょう。十分な換気によって硬く仕上げた葉が1枚以上展開してから、被覆を除去するイメージです。また、被覆を除去するベッドの本数は、除草、薬剤散布、追肥・土寄せを除去当日に完了できる範囲とします。

追肥・土寄せ

日ごとに土寄せを行い、土寄せ位置は首下までとします。止め土から収穫までの日数は、5月どりで20～25日間、6月・7月どりで14日～20日間とします。夏ネギは秋冬ネギに比べ、老化が早く進みます。老化が進むと、べと病・さび病・白絹病の被害が多くなるため、適期収穫に努めましょう。

病害虫防除

トンネル除去後、気温の上昇に伴い病害虫の発生が多くなります。特に、アザミウマ類の食害は品質低下を招きますので、防除を徹底しましょう。

写真② 小型トンネル換気方法



2月上旬



3月中旬

1月の分析経過について	
残留農薬分析点数	合計2点
多成分一斉分析	葉タマネギ……………1点 レタス……………1点 (ちばエコ)

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数……………合計61点